



針葉樹 一覧表

※植栽場所はマップに記載しているアルファベットと数字の区分エリアを表しています

樹木名	科名	属名	生活形態	別名	解説	植栽場所
アカマツ	マツ	マツ	常緑高木	メマツ、 オンナマツ	尾根筋や岩山など土壌のやせたところや乾燥地にもよく生育する。樹皮は赤褐色、老木では、赤味かった灰色で、深い割れ目を生じる。葉は2葉性。花は雌雄同株。花期は4～5月、新枝の基部に淡黄色の雄花が多数つき、先端に雌花が2～3個つく。球果は長さ4～5cmの卵形。種鱗はくさび形。翌年の秋に熟すと種鱗が開いて種子を散らす。材は粘りがあり、梁をはじめ、建築材につかわれる。	B-2 B-4
アシウスギ	ヒノキ	スギ	常緑高木	ウラスギ	日本海側に多いスギの変種。葉の開く角度が狭く、枝が垂れて地についた所から新しい株ができるほど萌芽力が強い。	A-2
アスナロ	ヒノキ	アスナロ	常緑高木	マキ	山地の尾根や湿原に生育する。樹幹は円錐形で、高さ30m。葉は十字対生で鱗片状であり、厚く光沢がある。ヒノキやサワラより大きい。葉裏は白い大きな気孔帯が目立つ。花は雌雄同種で、5月頃枝先につく。果実は球果で10～11月に熟す。明日ヒノキになろうからアスナロと言われるのは、俗説とされている。	A-2 C-2 C-3
イチョウ	イチョウ	イチョウ	落葉高木	ギンギョウ	中国原産とされ高さ30mほどになる。大木は乳と呼ばれる気根も見られる。樹皮はコルク質が発達する。落葉時は短枝がよく目立つ。長枝の葉は互生し、短枝の葉は輪生状につく。花は雌雄異株で4～5月に葉の展開と同時に開花する。種子は銀杏で知られ、10～11月に黄色く熟し、匂いがある。街路樹としてよく植えられており、大木も見られる。	B-1 C-2 C-3
イヌガヤ	イヌガヤ	イヌガヤ	常緑小高木	ヘダマ、 ヒノキダマ	耐陰性が強く、暗い湿った広葉樹やスギ林の中にふつう見られる。樹皮は、暗褐色。縦に裂けて、短冊状になる。葉は、左右に2列並んでつき、線形。表面は、暗緑色。裏面には、白い気孔帯が2本ある。花は雌雄別株、まれに同株、花期は、3～4月。種子は2～2.5cmの卵形。	C-3
イヌマキ	マキ	イヌマキ	常緑高木	クサマキ、 ホンマキ、マキ	海岸に近い山で生育し、高さ20m程度になる。樹皮は浅く裂けてはがれ落ちる。葉は互生で、長さ10～15cm、幅0.5～1cmの広線形。表面は深緑、葉裏は淡緑色で主脈が目立つ。花は雌雄異株で5～6月に咲く。種子は10～12月に果床が赤紫色に熟し、食べられる。	C-2 C-3
エンコウスギ	ヒノキ	スギ	常緑高木		スギの園芸品種で高さ3～5mになる。枝に短い葉だけ付く所と長い葉だけ付く所が交互にあり、その様子をテナガザルの腕に見立てて猿猴杉の名がつけられた。庭木や花材などに使われる。	A-2
オウゴンクジャクヒバ	ヒノキ	ヒノキ	常緑高木		ヒノキの園芸品種でクジャクヒバの仲間。新芽が黄金色で、特に葉色が秋から冬にかけてが美しい品種。樹高は2～5mで長枝の両側の小枝が密に対生し、重ならず水平に並ぶ。和名は枝葉の形をクジャクの尾羽に見立てた。	C-3

針葉樹 一覧表

※植栽場所はマップに記載しているアルファベットと数字の区分エリアを表しています

樹木名	科名	属名	生活形態	別名	解説	植栽場所
カイヅカイブキ	ヒノキ	ビャクシン	常緑高木		イブキの園芸品種で庭木などに植えられている。排気ガスにも強く街路樹にも植えられている。刈り込むことにより、綺麗な生垣状になる。強剪定をすると、とげのあるスギ葉が出てくる。	B-2 C-3
カヤ	イチイ	カヤ	常緑高木	ホンガヤ	山地に生育し、高さ25mになる。樹皮は縦に浅く割れる。若枝は緑色で、のちに赤褐色になる。葉は長さ2cm、幅0.3cmの線形でらせん状に付く。枝先では2列に並ぶ。イチイと違い葉の先端は鋭く、握ると痛い。葉幅も狭い。花は雌雄別株で5月頃咲く。種子は開花した翌年の9月に熟し、緑色のまま落下する。種子から油を取り食用や灯火用として用いられた。	C-3
キャラボク	イチイ	イチイ	常緑低木	キャラ、 ダイセンキャラボク	高さ1～2mの低木。葉が放射状につく。左右に水平につくのはキャラボクといわれるが区分するのは難しい。幹の株からよく分枝して広がり、高くはならない。葉の幅は2～3mmでイチイよりやや広く、厚みがある。	B-2
クロマツ	マツ	マツ	常緑高木	オマツ	雌雄同株。花期は5月頃。葉は2葉性。あまり光沢の無い緑色で、先端はとがり、にぎると痛い。葉は枝に3年ほどつき、のちに落ちる。日当たりのよい海岸の砂浜や岩上などに生育する。砂浜に続く海岸に多い。潮風に対する抵抗性が強い。アカマツより葉が太く、樹皮が黒っぽい。また、冬芽の鱗片はクロマツは白っぽく、アカマツでは赤い。	B-2 B-3 C-3
コウヤマキ	コウヤマキ	コウヤマキ	常緑高木	マキ	樹形が美しく、ナンヨウスギ、ヒマラヤスギと共に世界三大庭園樹と言われる。材は耐水性が極めて強く、古くから利用されており、遺跡等からよく出土される。和名は和歌山県の高野山に多いことに因む。	B-2 B-3
コウヨウザン	ヒノキ	コウヨウザン	常緑高木		高さ25m、直径80cmほどになる。雌雄同株。花期は4月。葉は側枝にらせん状につく。長さ3～5cmの長披針形で先はとがり、さわると痛い。表面は濃緑色、裏面には白い気孔帯が2本ある。球果は直径3～4cmの球形、褐色で光沢がある。生長が早いので、寺や神社に多く植えられる。	B-1 C-3
ゴヨウマツ	マツ	マツ	常緑高木	ヒメコマツ、 マルミゴヨウ	山地に生育する。尾根や岩上、溶岩流の上などに多い。高さ20mほどになる。葉が密生しないので全体に樹冠が薄く見える。葉は5葉性で、5個ずつ束生している。横断面は三角形で、側面には白緑色の気孔帯がある。先端はとがるが触っても痛くない。	C-2 C-3
サワラ	ヒノキ	ヒノキ	常緑高木		ヒノキによく似ているが葉裏の白い班紋がY字型ではなくX形状。葉の表面は薄緑色で光沢はなく、先はとがる。樹皮はやや天色を帯びた赤褐色。材はもろいが耐水性に優れ、湿気の多い桶、風呂桶等に利用される。	C-2

針葉樹 一覧表

※植栽場所はマップに記載しているアルファベットと数字の区分エリアを表しています

樹木名	科名	属名	生活形態	別名	解説	植栽場所
サワラ'ボールバード'	ヒノキ	ヒノキ	常緑小高木	ブルーバード	サワラの園芸品種。葉はやや曲がって密につく。青白い印象。	C-3
スギ	ヒノキ	スギ	常緑高木		日本を代表する建築材で、広島県でも過去には造林が盛んに行われた。春先の花粉が「花粉症」の原因と話題になる。おおざっぱに太平洋側のオモテスギ、日本海側のウラスギに分かれ(気候品種)、地域ごとにさらに形質が異なり、多品種である。	B-2 B-3
センジュ	ヒノキ	コノテガシワ	常緑低木		コノテガンワの園芸種。幹が叢生して、全体に広円錐形になる。和名は手のように広がった枝がたくさんある姿による。樹形は剪定しなくても広い円錐形になる。葉は表裏の区別がはっきりしない。花は2～4月ごろ枝先につく。	C-2
センペルセコイア	ヒノキ	セコイア	常緑高木	セコイアメスギ	樹高20～40m、原産地では樹高100mにも達する世界最大級の木。葉はラクウショウを常緑ににした印象で、イチイにも似るが、きれいに平面に並ぶ。枝先ほど葉が小さくなることが多い。葉の裏は白い気孔帯が2本ある。樹皮は赤褐色で縦に裂け、繊維質で弾力があり、非常に厚い。	C-2 C-3
ダイオウショウ	マツ	マツ	常緑高木	ダイオウマツ	北アメリカ東海岸地方原産で高さ25mになる。原産地では40mになるものもある。葉は暗緑色で細長く、3本ずつ密生して垂れ下がる。老木では20～25cm、若木で40～60cmになり、世界のマツの仲間で最も長い葉で、日本在来種のマツとは全く異なる。球果は長さ15～25cmの円錐形～長楕円形で暗褐色。	A-2
タギョウショウ	マツ	マツ	常緑小高木	ウツクシマツ	アカマツの品種で、根元から多数の枝を出すのが特徴。自生しているウツクシマツより枝の広がる角度が大きく、庭園などに利用されている。滋賀県湖南市（旧甲賀郡甲西町）の美松山（びしょうざん）の「平松のウツクシマツ自生地」は国の天然記念物に指定されている。	B-3
タマイブキ	ヒノキ	ビャクシン	常緑低木		イブキの園芸品種。樹形が半球形になる性質で、花壇の縁取りや誘導樹として公園などに植えられる。花は4月に咲き、雌雄異株、まれに同株。球果は肉質で直径7～9mmのほぼ球形で、翌年の10月に黒く熟し、白粉をかぶる。	C-3
チャボヒバ	ヒノキ	ヒノキ	常緑高木	カマクラヒバ	ヒノキの園芸種。この名は、短い枝を脚の短いチャボにたとえたといわれている。別名カマクラヒバとも呼ばれている。一般にヒノキより矮性で、枝が短く、扇状で密に分枝し、狭円錐形のまとまった樹冠になるため、庭木や盆栽として人気がある。	C-3

針葉樹 一覧表

※植栽場所はマップに記載しているアルファベットと数字の区分エリアを表しています

樹木名	科名	属名	生活形態	別名	解説	植栽場所
チョウセンゴヨウ	マツ	マツ	常緑高木	チョウセンマツ	亜高山帯に生育する。高さ20mになる。樹冠は円錐形。本年枝には赤褐色の短毛が密に生える。葉は5葉性。横断面は三角形。白味を帯びた光沢はあまりない。先端はとがるが、やや柔らかく握っても痛くない。花期は6月。雌花は新枝の先端につき、雄花は下部につく。雄花は紅黄色。ゴヨウマツに比べて葉が大きく、球果は特別大きい。	B-1
ツガ	マツ	ツガ	常緑高木	トガ	広島県西部(宮島大元公園の自生は珍重)の山地にまれに自生。モミより葉が小型で、球果も小型。葉裏には2本の白い気孔帯があり、短い葉柄に対し葉は直角に開く。コメツガの若い枝は有毛であるが、本種は無毛である。	C-2
ドイツトウヒ	マツ	トウヒ	常緑高木	ヨーロッパトウヒ、 オウシュウトウヒ	常緑高木。原産地では高さ40m、直径80cmに達する。公園樹、庭園樹。建築材、楽器材として利用され、クリスマスツリーにもよく使われる。葉は長さ2cm、横断面はひし形。先端はとがり、多少曲がる。球果は世界のトウヒ属の中で最も大きく長さ10～20cm、直径3～4cm。その年の10月ごろ褐色に熟す。	C-2
ナギ	マキ	ナギ	常緑高木	コゾウナカセ、 チカラシバ	広島県内に自生はない。お寺、神社、公園等に植栽されている。種子からとった油は神社の灯火用に使われていた。寒さに弱い。イチョウと同じく中広の葉は針葉樹として異例で、節ごとに90度ずつ葉がねじれている。	B-3 C-3
ニオイヒバ	ヒノキ	ネズコ	常緑高木		北米原産で公園などに植えられ、高さ20mになる。樹冠は狭い円錐形～円柱形になる。樹皮は赤褐色で縦に裂けてはがれ、葉は長さ約4mmの林片状で光沢はあまりない。葉をもむと甘い香りがする。花は雌雄同株で5月に枝先につく。球果は1cmほどの楕円形で、枝先に群がってつく。はじめオレンジ色で、10～11月に熟すと朱色になって裂開する。	C-3
ネズミサシ	ヒノキ	ビャクシン	常緑小高木	ネズ、ムロ	成長がゆるやかで大木になりにくい。材は堅く腐れにくい。葉は先が尖り触ると痛い。長さ1～2.5cmの針状で、3輪生する。花は4月頃開花し、果実は翌年もしくは翌々年の10月頃に熟す。果実からは酒（ジン）の香料を取る。	C-2
ハイビャクシン	ヒノキ	ビャクシン	常緑低木	ソナレ、 イワダレネズ	イブキ(ビャクシン)の変種で老木になるとまれに片状の葉がでる。日本の壱岐・対馬・琉球諸島の海岸に自生。日当たりを好み、乾燥地に強く、やせ地にも育ち、寒さや潮風に強く、剪定にも耐える。庭園などの根締に利用。	C-3
ヒノキ	ヒノキ	ヒノキ	常緑高木		日本を代表する建築用材。鱗状葉の表面は濃緑色で光沢があり、先はとがらない。裏面の白色気孔船線はY字型になる。樹皮は赤褐色で灰色を帯びるものもある。和名は、火の木の意味で、大昔の人がこの樹をこすって火を出したことに由来。	A-1 B-4 C-2

針葉樹 一覧表

※植栽場所はマップに記載しているアルファベットと数字の区分エリアを表しています

樹木名	科名	属名	生活形態	別名	解説	植栽場所
ヒマラヤスギ	マツ	ヒマラヤスギ	常緑高木	ヒマラヤシーダー	明治時代に導入され、公園などに植栽されている。高さ25mになり、自然樹形は円錐形になる。長枝と短枝があり、葉は長枝にはらせん状につき、短枝には多数束生する。花は雌雄同株で、10～11月に短枝につく。雄花は2～5cmの円筒形。球果は6～13cmの卵形で翌年秋に熟す。ヒマラヤスギの名があるが、マツの仲間。	A-1 C-2 C-3
ヒムロ	ヒノキ	ヒノキ	常緑高木		サワラの変種の一つで自然界にはない。樹形、葉の色が美しいので公園、庭園に植栽。葉がサワラの幼苗の葉に似ており、青白緑色でやわらかい感じがする。	A-3
ヒヨクヒバ	ヒノキ	ヒノキ	常緑高木	イトヒバ	サワラの園芸品種であり、枝や葉の先が垂れ下がり、葉は黄色を帯びていることが多い。	D-3
ミヤマビャクシン	ヒノキ	ビャクシン	常緑低木	シンパク	イブキ(ビャクシン)の変種。幹は地を這い斜上する多くの枝を出し、高さ50cmぐらいになる。葉は片葉が多く、下枝に針状の葉が混じりイブキに似ているが白っぽい。盆栽にしたものを檜柏(しんぱく)と呼ぶ。	B-2
メタセコイア	ヒノキ	メタセコイア	落葉高木	アケボノスギ	中国南西部原産で1945年に発見された。高さ20mになる。葉は側枝に対生し、長さ2～3cm、幅1mmの線形で柔らかい。秋になると赤褐色に色づき、側枝ごと落ちる。花は2～3月に枝先から下がつた長い花序に多数つく。果実は球果で10～11月に直径約1.5cmのやや長い球形に熟す。よく似るラクウショウは、葉が互生。	A-1 C-3 C-4 D-4
モミ	マツ	モミ	常緑高木	モミソ	大きいものでは高さ25～40m、直径1～2mになる。葉は先端が2裂して針状にとがり、基部は狭くなり葉痕は丸い。欧州では神聖木とし、ドイツでは悪霊除けの風習のほか、クリスマスツリーにも利用される。樹形は円錐形になる。	B-1 C-2 C-3
ラカンマキ	マキ	イヌマキ	常緑高木		イヌマキの変種とされる。葉はイヌマキが10cm強であるのに対し4～8cmと小型で密につき、白っぽく、葉先や枝は垂れない。庭木や生け垣にイヌマキよりむしろ多用されている。果托は赤く熟す。種子は青緑色で白粉をかぶる。和名は種子から坊主頭の羅漢を連想するところから。	C-3
ラクウショウ	ヒノキ	ラクウショウ	落葉高木	ヌマスギ	水湿地や沼地などに生育し、高さ20mになる。樹幹は円錐形～丸みを帯びる。葉は側枝に羽状に互生し、秋には赤褐色に色づき側枝ごと落ちる。花は雌雄同株で、4月に雄花は10～20cmの花序に多数つき、雌花は緑色で枝の先端に数個つく。メタセコイアと似ているが、メタセコイアは葉が対生し、本種は対生する。球果はラクウショウの方が大きい。湿地では、ある程度大きくなると膝根と呼ばれる呼吸根が地中から出てくる。	D-3 D-4